

授業科目 筋骨格系理学療法学

【担当教員名】 亀尾 徹		対象学年	2	対象学科	理学
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	4	時間数	90
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	○	◎	
【概要・一般目標：G10】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 筋骨格系理学療法に関するクリニカルリーズニングについて修得する。 2. 筋骨格系理学療法の評価と治療の流れを学習する。 3. 筋骨格系理学療法における基本的治療技術を演習する。 4. 筋骨格系理学療法におけるモーターコントロールについて演習する。 					
【行動目標：SB0】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療面接で得られた情報から、身体機能評価を計画することができる。 2. 評価から得られた情報を解釈し、原因組織や関連因子などについて妥当な仮説を導き出すことができる。 3. 仮説演繹的手法を用いて基本的な治療を計画することができる。 4. 治療手技を説明し、実践することができる。 					
回数	授業計画・学習の主題	SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1	主観的評価（医療面接）概要と身体機能評価の計画	1-3	講義		
2	身体機能評価の概要（1）	1-3	講義		
3	身体機能評価の概要（2）	1-3	講義		
4	筋骨格系理学療法における各種治療概念	1-4	講義		
5	関節運動学（1）	1-4	講義		
6	関節運動学（2）	1-4	講義		
7	軟部組織へのアプローチ（1）	1-4	講義		
8	軟部組織へのアプローチ（2）	1-4	講義		
9	運動器疾患に対するモーターコントロール（1）	1-4	講義		
10	運動器疾患に対するモーターコントロール（2）	1-4	講義		
11	運動器疾患における神経系へのアプローチ（1）	1-4	講義		
12	運動器疾患における神経系へのアプローチ（2）	1-4	講義		
13	スポーツ障害に対するアプローチ（1）	1-4	講義		
14	スポーツ障害に対するアプローチ（2）	1-4	講義		
15	まとめ	1-4	講義		
16	骨ランドマークの触診（1）	1-4	演習		
17	骨ランドマークの触診（2）	1-4	演習		
18	軟部組織の触診	1-4	演習		
19	末梢神経の触診	1-4	演習		
20	自動運動（上肢）	1-4	演習		
21	自動運動・機能的動作（下肢）	1-4	演習		
22	生理的他動運動（上肢）	1-4	演習		
23	生理的他動運動（下肢）	1-4	演習		
24	他動的副運動（上肢）	1-4	演習		
25	他動的副運動（下肢）	1-4	演習		
26	脊柱の生理的他動運動	1-4	演習		
27	脊柱の副運動	1-4	演習		
28	神経系へのアプローチ	1-4	演習		
29	ロールプレー演習（1）	1-4	演習		
30	ロールプレー演習（2）	1-4	演習		
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)	マニュアルセラピーに対するクリニカルリーズニングのすべて	Mark Jones、監訳：亀尾徹	協同医書出版社	2010・10,500円	
参考書	運動器リハビリテーションの機能評価2	David Magee、陶山哲夫他監訳	エルゼビアジャパン	2006・10,500円	
その他の資料	配付資料				
【評価方法】 授業出席、授業態度、期末試験、実習態度、実技試験		【履修上の留意点】 演習時に直接身体部位が観察可能なように、短パン、ノースリーブシャツなどを着用の上、ジャージなどの動きやすい服装で参加してください。			